



ぴっぴごより No.8 2019.11.1

9月初旬、信州大学・上田女子短大 合同学習会の講師に任じられました。参加される方は、大学の先生たちと院生です。二回目の依頼でした。前回のテーマは「自然保育」今回は「保護者」でした。お話を頂いてすぐに「生き生きとした暮らしと共に造る」の表題が浮かびました。奥底からでした。この夏はずっとそのことを考えていて、私自身の「保護者時代」も思い出しながら、「過去から今」をまとめたながら、たくさんの方に気づかされた感謝が沸き起こりました。ぴっぴ開園から13年、基本的なことは、何も変わらないうえと思えます。

- ・保護者ご自身が 緩むことを大切に。
- ・ぴっぴは親子の心地好い関係を育てる場
- ・隠さず、一緒に考える。アイデアをもらう。助けをもらう。勇気も借りる

ぴっぴの歩みの中で 想像以上に 保護者同士が繋がり、1人1人関係がたくさんあります。先輩保護者の皆さんが、ご自身が受けた嬉しさを「次の方に手渡していく」のが自然に起ります。子どもたちも同じですね。また、ぴっぴの森にいると 保護者ご自身が「育てられた」癒された 感覚だと 話されたり、「親子の充電の場所」「ホームグラウンド」と表現される方が多いです。私自身が保護者時代に味わったことはいっぱい。うらやましい「思い」を伝えて下す。これは何なのだろう。どこから来ているのだろう。

子どもを送ってきた保護者の皆さんが、森の力と、仲間の温かさに包まれてほっとしているのかは。笑ったり、泣いたり、怒ったり……子どもたちと同じように様々な感情を森に吸い込んでもらっているのかは。ありのままの自分を受け止めてもらえる安心感を感じているのかは。

合同学習会に参加した信州大学の先生が、私が話した「うまく転べるように」のエピソードを絡めて話してくれた言葉が印象深く残っています。「子どももそうだが、保育者も保護者も共に暮らし育つ中、お互いが『うまく転べるように』と祈りつつ、励まし合います。そうやって自分らのチャレンジを積み重ねていけるから、それが信頼のひとつの創り方なのではないかと思いました」と伝えてくれた。本当にそうかも知れませんね。

ぴっぴの森が仲間と繋がって、保護者の皆さんご自身が「自分」を生き、真の生きる力を身につけられお返しと心から願っています。ぴっぴは子どもが子どもらしくいることが許される場所です。かつて子どもだった大人（保護者の皆さんも、スタッフも！）も大人を存分に楽しむことが許される場所なんです。

そんなことを大切に思いながら、子どもも大人も自分の居心地の好さを探れ続け、それぞれの自己実現に向かっていけたらいいな……と思いつつ過ごしています。

*「うまく転べるように」エピソード (2015/9)

R5のお誕生日のお祝いの「つむりのプレゼント」を頂く時間。「つむりのプレゼント」は目の前にたけりど、あるつむりど、年長児たちのお祝いの席で一人づつ心を込めて手渡します。お返りは免れたもの。お金では買えないものくらいの条件は伝えてあります。Y5「月まで届く星の手裏剣です。月まで届くと願いごとが叶います。嬉しそうに受け取るR5。真子「どんな願いごとある？ R5「うまく転べるようにお願ひする！」。転げたくないようにしてはなくてうまく転べるようにというのが、ぴっぴの子らしい。たくさん転び、困る経験数の多さを感ずる。

：真子

吉田真理子さんご結婚されることになり、10月末で退職いたしました。短いぴっぴ生活でしたが、あたたかく見守ってくださり、ありがとうございました。